

オンライン診療開始のお知らせ

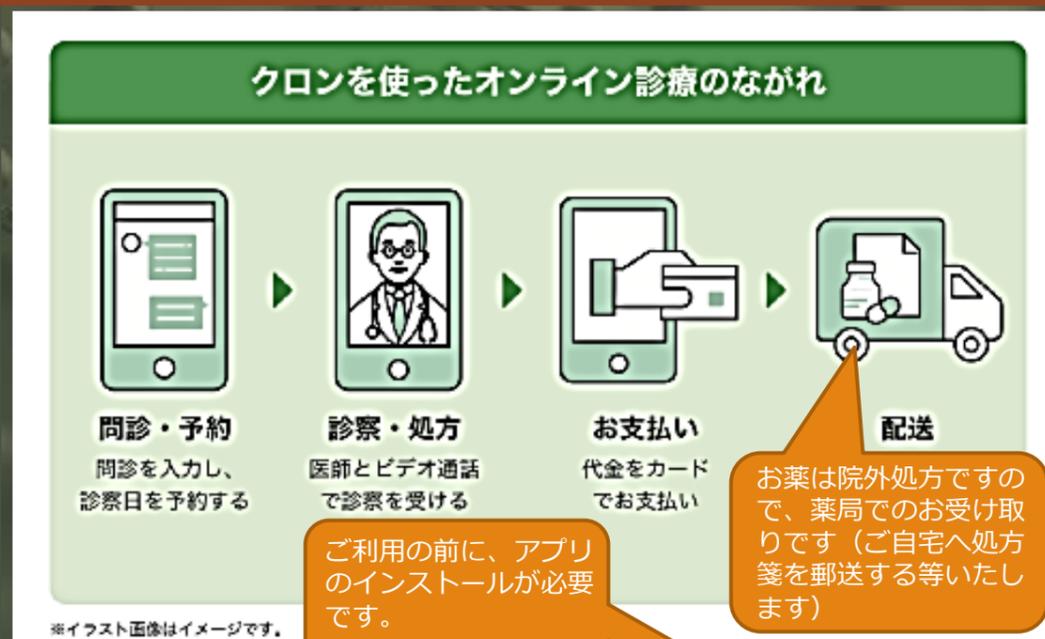
新型コロナウイルス感染対策として、スマホの画面を使って診療する「オンライン診療」を開始します。

※新型コロナウイルス感染対策の時的措置であり、当面の間、**当院をすでに受診されている方へのサービス**となります。

【オンライン診療の特長】

- ☆ 来院は不要
- ☆ 待ち時間はほとんどありません
- ☆ ご要望があれば、処方箋をご自宅に郵送します。

予約から診療、会計まで「CURON」というアプリを利用します。



ご利用の前に、アプリのインストールが必要です。

お薬は院外処方ですので、薬局でのお受け取りです(ご自宅へ処方箋を郵送する等いたします)

医療機関コード
d871



医療機関を登録する際にこちらを入力してください。

今すぐアプリをダウンロードしよう!

右のQRコードからアプリをダウンロードしてください。



【お支払い・料金について】

- 毎回、診察の際に、アプリの利用料として、330円がかかります
- 「情報通信機器の運用に係る実費」として、825円を徴収させていただきます
- 処方箋をご自宅に送る場合、別途郵送料を頂きます

かわもと記念クリニックのホームページでご利用案内「オンライン診療」(PDFデータ)をご覧ください。



医療法人聖祥会
かわもと記念クリニック
KMSグループの広報誌

SMILE ~笑顔と健康のために~



now more staff Ms. ISHII

CONTENTS

- 連携病院との対談シリーズ 今給黎和幸理事長
(公益社団法人昭和会 今給黎総合病院)
- 在宅医療(訪問診療・往診・訪問看護)を強化します
- 糖尿病内科の紹介
- 職員の悩み・ハラスメント防止対策の相談室を開設

【発行・企画】

医療法人聖祥会 かわもと記念クリニック

〒892-0871 鹿児島市吉野町5397-3

☎ (099) 243-5500 FAX (099) 244-5457

ホームページURL <http://www.kawamoto-cl.or.jp>



ごあいさつ

～広報誌「SMILE」の発行～

令和2年度、2020年度がスタートし、誰もが経験したことのないような新型コロナウイルスによる緊急事態への対応に追われる日々を送ることとなりました。自粛により、これまでの日常が大きく変化し、人と会えない外出できない「制限」によるストレス、見えない敵との闘いによる不安、医療崩壊への危機感、経済・収入への不安などは解消されないまま、新しい日常生活様式へ対応しなくてはならない世の中となりました。



理事長
川本 研一郎

コロナとの闘いを機に、どのような状況であっても医療と介護サービスは動かし続けなくてはならない重要な機能であると痛感させられました。本院としても今後も医療と介護サービスを安定して提供する役割を担うため、常に時代の先を見据えながら、新しい技術を導入し、質の高いサービスを追求することを軸として掲げることといたしました。今回、新しい理念と基本方針を定め、地域の皆様のニーズに応えられるように、全職員で心を一つにして、これからも邁進してまいりたいと考えております。

また、4月より、24時間・年中無休で、外来の診療をしております。鹿児島市の北部、吉野の地域のクリニックではありますが、救急医療の病院との連携により、「断らない医療」、「自宅療養への支援」を実現してまいります。

私ども法人のこのような想いと取り組みを地域の皆様により深く理解していただきたいと考え広報に力を入れてまいります。コロナ対策により、web会議、web飲み会など、今まで以上にインターネットを活用する時代となりました。この変化にも対応しながら、ホームページを随時更新し、FacebookとLINE公式アカウントを開設しました。インターネットやSNS（ソーシャルネットワークサービス）には馴染めないという方々であっても、できる限り必要な情報をお届けできるよう紙面でも広報誌を作成いたしますので、ご覧いただきますようよろしくお願い申し上げます。

KMSグループ

- かわもと記念クリニック
- 通所リハビリテーションゆうゆう
- 訪問リハビリテーション
- 訪問看護
- グループホームゆうかり
- あいる居宅介護支援事業所
- 運動型通所介護 now more
- 機能改善施設 リジューベKMS
- デイサービス ふれあいステーション愛
- 訪問介護 介護支援センター愛
- グループホーム愛愛
- 住宅型有料老人ホーム 愛の苑

理念

関わるすべての人の笑顔と健康のために、
未来へ挑み、社会に貢献する

かわもと記念クリニック基本方針

- 救急患者の受け入れと在宅医療の体制強化を図り、「断らない医療」と「自宅療養への支援」で地域を支え、新しい技術やサービスを積極的に取り入れます
- 相手の立場に立ち、心に寄り添い、心のこもった挨拶と笑顔で対応します
- 人と人との繋がりを大切にし、連携をとり、最適な医療を提供します
- 職員の研修や教育を充実させ、地域の皆様の健康を支える医療スタッフとしての質の向上を図ります
- 職員は、お互いを尊重し認め合い、チーム医療を心がけ、働きがいのある楽しい職場にします

外来担当医のお知らせなどの毎週お届けしています！FacebookとLINE公式アカウント、ホームページのご案内

QRコードを読み込むか、「かわもと記念クリニック」で検索されますとご覧いただけます。



スマートフォンでも
ご覧いただけます

ホームページURL
<http://www.kawamoto-cl.or.jp>



いまきいれ総合病院
2021年1月移転開業予定



(今) 交通局跡地は、健「幸」をテーマにした街づくり「キラ・メ・キテラス」事業も並行して進んでいます。少子高齢化社会を見据えてコンパクトシティ構想の下、医療提供に留まらず、防災や健康、コミュニティ、衣食住にわたって社会との共生を目指した地域貢献事業に取り組んでいきます。

(川) 総合病院という大規模な病院ですと、病院が街づくりに大きく関与していきます。交通局跡地の「いまきいれ総合病院」が誕生すると地域の人の流れも変わるのではないかと思いますが、いかがでしょうか。



今給黎 和幸
理事長

公益社団法人 昭和会
今給黎総合病院

(今) よろしくお願いたします。
(川) 吉野・上町地域の皆さまのために変わらぬ連携をよろしくお願いたします。

(川) 今給黎総合病院の移転が来年に迫っていますが、新しい病院は、どのような形になるのでしょうか。
(今) そうですね、2021年1月に交通局跡地に350床の急性期病床の「いまきいれ総合病院」を移転、開業します。現在の下竜尾町には、2021年6月に100床の地域包括ケア・回復期リハビリテーション病院として「上町いまきいれ病院」を開業します。

(川) 当院は地域医療支援病院の機能として、かかりつけ医との連携強化をうたっています。なかでも吉野地区においては、かわもと記念クリニックからの紹介は、当院関連病院の中でも群を抜いていて、当院にとっても無くてはならない重要拠点病院と位置付けています。
(今) かわもと記念クリニックでは、24時間年中無休で外来診療の対応をしています。救急で対応するうえで、さらに高度医療が必要となった場合などに連携でき、心強く思っているところです。ありがとうございます。

連携病院「これまで」との対談シリーズの連携とこれからの連携

連携対談
今給黎和幸理事長
(公益社団法人 昭和会
今給黎総合病院)

× 川本研一郎理事長
(医療法人 聖祥会
かわもと記念クリニック)



(今) 慢性期病院として100床、総合内科、眼科、神経内科、整形外科の一部が残りますので、これまでの患者さまに対応できる機能も少し残せるのではないかと思います。また、今後は、上町と交通局跡地への交通手段も病院で用意するなど、利便性の向上も検討していきたいと思っています。

(川) 下竜尾町の「上町いまきいれ病院」は、どのような機能になりますか。
(今) そのことです。救急対応は、今の病院以上の救急強化で、地理的不便の解消に努めたいと思っています。

(川) 救急体制を強化されるのでしょうか。救急車の受け入れができなかったり、また受け入れまでに時間を要したという問題も度々起こりますが、当院の方針として、「まずは受け入れる、いつでも診る、断らない医療」という信念で診療しております。今後も当院とのつながりは変わらないということでしょうか。

(今) 確かに今回の移転で、地域の皆さまにはご不便をおかけするかもしれませんが、新病院では救急車対応のキャパシティを上げます。また、地域医構想では病院機能の分化と連携、集約を求められ、当院でもそのような要求に応えたいと考えています。

(川) 街づくり事業の展開は楽しみですね。ただ、当院と吉野・上町地区の皆さまにとって、急性期病院が少し遠くになってしまおうと思いますが、今後その点はいかがでしょうか。



川本 研一郎
理事長

医療法人 聖祥会
かわもと記念クリニック

吉野地域の皆さまの救急医療に
関わっている当院の連携医療機関の
理事長にお話いただきました。

在宅医療の強化へ

訪問診療・往診 ～担当医師の専門を活かし診療

超高齢化社会を迎え、「病院や診療所に行きたくても、身体が不自由で病院に連れていく家族などいない」という方が増えています。このような状況を解決するのが在宅医療であり、医師が患者のいる場所（自宅など）に出向いて行う診療が「往診」や「訪問診療」です。緊急時に訪問するのが「往診」、定期的に訪問するのが「訪問診療」となっています。

当院の訪問診療にあたる医師は、内科は消化器、糖尿病、肝臓、循環器の専門医に加え、外科、皮膚科と幅広く、それぞれの専門性を活かしながら診察いたします。

入院が必要な場合には、当院はもちろん、連携する病院で治療できるようにしています。

【訪問診療を主にご利用いただく方】

- 脳卒中の後遺症や重度障害
- 認知症などで薬の管理が困難
- がん、難病などの疾患で通院が困難
- 胃ろう交換や在宅中心静脈栄養法、各種カテーテルなど医療器が必要
- インスリン自己注射等の在宅自己注射管理が必要
- 褥瘡などの皮膚疾患
- 体力低下により通院が困難
- ご自宅で最期の時を過ごしたい



訪問診療部長
医師 鮫島 淳一郎
●外科 内科

糖尿病内科の紹介

★Message from doctor

6月から糖尿病治療を担当しております。当院の糖尿病患者さまについて、今後、基本的には小生が診させて頂くことになるかと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

糖尿病とは「インスリンの作用不足に伴う慢性の高血糖を主徴とし、様々な合併症をもたらす代謝症候群」と定義されています。分かりやすく申し上げれば、血糖の利用に影響するインスリンの働きが足りない⇒血糖値が高くなる⇒いろいろな合併症を起こす⇒生活の上で障害をきたし、通常の生活を送れなくなる病気とお考え下さい。そのため、糖尿病の治療において、まず高血糖の是正が必要ですが、高血糖の是正というのは最終的な治療目的ではなく、いろいろな合併症の発症や進展を阻止するための手段ということになります。

糖尿病の患者さまにおいては、不健康な期間（介護を必要とする期間）が糖尿病でない方に比べて、男性で約8年間、女性で約13年間早くなると言われています。そのため、糖尿病の患者さまには、合併症が進行する前からキチンと治療を受けて頂き、健康寿命を長く過ごして頂きたいと考えております。



医師 盛満 慎吾

- 日本糖尿病学会
糖尿病専門医
- 日本内科学会
総合内科専門医

一病息災という言葉がありますが、糖尿病があってもキチンとした管理で問題なく一生を送れますので、患者さまと一緒に治療を頑張りたいと思っています。

訪問看護 ～2020年1月からサービス開始！

「訪問看護」とは、看護師などがご自宅や施設で、主治医の指示のもとで行う療養上の世話又は必要な診療の補助です。要介護または要支援の状態にある方を支援します。

【訪問看護の内容】

- 病状・障害の観察
- 清拭・散髪等による清潔の保持
- 食事及び排泄等の日常生活の世話
- 褥瘡の予防・処置
- リハビリテーション
- ターミナルケア
- 認知症患者の看護
- 療養生活や介護方法の指導
- カテーテル等の管理
- その他医師の指示による医療処置

【ご利用のお問い合わせ】

ご自宅で療養されている方は、当院に直接お電話いただくか、担当のかかりつけ医、ケアマネージャーにご相談のうえ、ご連絡ください。

【連絡先・当院のソーシャルワーカー】

☎（直通）099-201-7010 ☎（携帯）080-2783-0622



在宅医療・訪問看護主任
看護師 加治屋 由紀子

★一言・・・「来てもらえて安心するよ」という言葉を励みに頑張っています

職員の悩み・ハラスメント防止対策のための職員相談室を開設



企画広報室長
職員相談室長
松井 聡子

職員が抱えている職場の人間関係や家庭の悩みなどを傾聴し、ともに改善策を考えながらストレスの軽減とエンパワーメント（勇気づけ・能力の発揮）に繋げる相談室を4月から開設しました。

ハラスメント防止対策のための相談、研修も行います。現在、3名の相談員でKMSグループ（約160名）の職員を対象に、仕事の悩みなどをマンツーマンで聴いています。カラーセラピーも取り入れながら、気軽に利用してもらえる工夫をしています。

職員一人一人が、心も身体も健やかな状態で過ごすことができるよう取り組んでいきます。

